

すくわくプログラム報告書

施設名	田中ナースリー大和保育園
クラス	3歳児
日付	2025.11.11

1 活動のテーマ

<テーマ>

水・砂・泥

2 <テーマの設定理由>

- ・自然物に触れることが好きな子多く、自然物を通した遊びを経験し、不思議さに気付いたり探求心を育てる
- ・普段と違う玩具を用意し、新しい遊びを体験し楽しむ。

3 環境の設定

<活動のために準備した素材や道具>

竹型の長いトイ、じょうろ、色水、空き瓶ケース

4 探索活動の実践内容

保育者が遊びで使う道具を用意すると、早速シャベルとじょうろを手に取り砂場の砂を掘り始めた。

竹には関心が見られなかったため、興味をもてるよう竹を使い水の流れ道を作った。

空きビンケースから竹が滑り落ち何度も崩れる

子ども 「また落ちたー」

保育者 「どうしたら竹が落ちないかなー」

子ども 「こうがいいんじゃない」

子どもたちと保育者で何度も修正しながら竹の置き場を考え安定したところで水を流す



掘ったところに水がたくさん流れ、水たまり作りに夢中になる。

「もっと水入れて」 「流していいよ」と何度もじょうろで流すが、水が土に吸収されみずたまりがなくなってしまうことに気付く。



みんなで、『どうしたら水がたまる』か考え、協力しながらたくさん水を流した。



さらに発展し保育者が色水を作る。

「青色の水だ！」と早速流す。水たまりに青色が流れると喜び、繰り返し流して遊んでいた。

5 振り返り

始め用意した道具は、経験がある物だけ触れていた。保育者が遊び方につながる『問い』をかけると興味がわき、触れるようになった。遊びが体験できような問いやヒントを保育者が提供していくことが「こうしよう」などの考えにつながったと思う。

様子を見守るだけでなく、反応を見ながら遊びが発展するように環境を提供していくことも、新しい体験につながっていくと感じた。

水あそびが大好きな子どもたちであり、今回の遊びを通して、水に触れるだけでなく「流す」遊びを体験し、流れる楽しさを感じたり、水たまりができるということを知ることが出来たと思う。

色水を作ると、色がついた水たまりができたことを喜び、無色透明の水とは違う面白さを感じられたと思った。